

# 新規採用・削除医薬品等通知

## 新規採用医薬品通知

(薬品名)	アーリーダ錠 60mg	劇
(英名)	Apalutamide	
(規格・含有量)	1錠中アパルタミド 60mg	
(一般名)	アパルタミド	
(メーカー名)	ヤンセンファーマ株式会社	
【薬価収載日】	2019年5月	
【薬価】	1錠;2,311円	
【薬効コード】	4291	
【薬効分類名】	前立腺癌治療剤	
効能・効果	遠隔転移を有しない去勢抵抗性前立腺癌 遠隔転移を有する前立腺癌	
用法・用量	通常、成人にはアパルタミドとして1日1回240mgを経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。	
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	<p><b>本剤作用増強のおそれ</b> CYP2C8 阻害剤;クロピドグレル等、CYP3A 阻害剤;イトラコナゾール、リトナビル、クラリスロマイシン等</p> <p><b>他剤作用減弱のおそれ</b> CYP3A の基質となる薬剤;ミタゾラム、ダルナビル、フェロジピン、シンバスタチン等、CYP2C19 の基質となる薬剤;オメプラゾール、ジアゼパム、ランソプラゾール等、CYP2C9 の基質となる薬剤;ワルファリン、フェニトイン、セレコキシブ等、P-gp の基質となる薬剤;フェキソフェナジン、ダビガトラン、ジゴキシシン等、BCRP 及び OATP1B1 の基質となる薬剤;ロスバスタチン、アトルバスタチン等</p> <p><b>痙攣発作誘発のおそれ</b> 痙攣発作の閾値を低下させる薬剤</p>	
副作用	<p><b>重大な副作用</b> 痙攣発作、心臓障害、重度の皮膚障害、間質性肺疾患</p> <p><b>その他</b> 食欲減退、皮疹、そう痒症、ほてり、悪心、下痢、疲労</p>	

## 後発医薬品採用通知

変更後	変更前
<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>3月2日より</u></li> <li>エルサメット S 配合錠</li> <li>アゾセミド錠 60mg「JG」</li> <li>アゾセミド錠 30mg「JG」</li> <li>クアゼパム錠 15mg「MNP」</li> <li>タンドスピロンクエン酸塩錠 10mg「トーフ」</li> <li>エチゾラム錠 0.5mg「フジナガ」</li> <li>炭酸リチウム錠 200「ヨシトミ」</li> <li>リバスチグミンテープ 4.5mg「ニプロ」</li> <li>リバスチグミンテープ 9mg「ニプロ」</li> <li>リバスチグミンテープ 13.5mg「ニプロ」</li> <li>リバスチグミンテープ 18mg「ニプロ」</li> <li>エンテカビル錠 0.5mg「トーフ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エビプロスタット配合錠 DB</li> <li>ダイアート錠 60mg</li> <li>ダイアート錠 30mg</li> <li>ドラール錠 15</li> <li>セディール錠 10mg</li> <li>デパス錠 0.5mg</li> <li>リーマス錠 200</li> <li>イクセロンパッチ 4.5mg</li> <li>イクセロンパッチ 9mg</li> <li>イクセロンパッチ 13.5mg</li> <li>イクセロンパッチ 18mg</li> <li>バラクルード錠 0.5mg</li> </ul>

## 販売名変更通知

変更後	変更前
<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>在庫消尽後</u></li> <li>ジアゼパム錠 2mg「タイホウ」</li> <li>ジアゼパム錠 5mg「タイホウ」</li> <li>ヒアルロン酸 Na 点眼液 0.1%「センジュ」</li> <li>ジメチコン内用液 2%「カイゲン」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジアパックス錠 2mg</li> <li>ジアパックス錠 5mg</li> <li>ティアバランス点眼液 0.1%</li> <li>バルギン消泡内用液 2%</li> </ul>

## 適応追加通知

イグザレルト錠	【効能・効果】
10mg	成人
15mg	非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制
イグザレルト細粒分包	静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症)の治療及び再発抑制
10mg	小児
15mg	静脈血栓塞栓症の治療及び再発抑制
	【用法・用量】
	〈非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制〉
	通常、成人にはリバーロキサバンとして15mgを1日1回食後に経口投与する。なお、腎障害のある患者に対しては、腎機能の程度に応じて10mg1日1回に減量する。
	〈静脈血栓塞栓症の治療及び再発抑制〉
	成人
	通常、成人には深部静脈血栓症又は肺血栓塞栓症発症後の初期3週間はリバーロキサバンとして15mgを1日2回食後に経口投与し、その後は15mgを1日1回食後に経口投与する。
	小児
	通常、体重30kg以上の小児にはリバーロキサバンとして15mgを1日1回食後に経口投与する。

<p>レミフェンタニル静注 用 2mg「第一三共」</p>	<p><b>【効能・効果】</b>  成人:全身麻酔の導入及び維持における鎮痛  <b>小児:全身麻酔の維持における鎮痛</b></p> <p><b>【用法・用量】</b>  成人では他の全身麻酔剤を必ず併用し、下記用量を用いる。  <b>麻酔導入:</b>通常、レミフェンタニルとして <math>0.5 \mu\text{g}/\text{kg}/\text{分}</math> の速さで持続静脈内投与する。  なお、ダブルルーメンチューブの使用、挿管困難等、気管挿管時に強い刺激が予想される場合には、<math>1.0 \mu\text{g}/\text{kg}/\text{分}</math> とすること。また、必要に応じて、持続静脈内投与開始前にレミフェンタニルとして <math>1.0 \mu\text{g}/\text{kg}</math> を 30 ～60 秒かけて単回静脈内投与することができる。ただし、気管挿管を本剤の投与開始から 10 分以上経過した後に行う場合には単回静脈内投与の必要はない。  <b>麻酔維持:</b>通常、レミフェンタニルとして <math>0.25 \mu\text{g}/\text{kg}/\text{分}</math> の速さで持続静脈内投与する。なお、投与速度については、患者の全身状態を観察しながら、2 ～ 5 分間隔で 25 ～ 100%の範囲で加速又は 25 ～ 50%の範囲で減速できるが、最大でも <math>2.0 \mu\text{g}/\text{kg}/\text{分}</math> を超えないこと。浅麻酔時には、レミフェンタニルとして <math>0.5 \sim 1.0 \mu\text{g}/\text{kg}</math> を 2 ～ 5 分間隔で追加単回静脈内投与することができる。  <b>1 歳以上の小児では他の全身麻酔剤を必ず併用し、下記用量を用いる。</b>  <b>麻酔維持:</b>通常、レミフェンタニルとして <math>0.25 \mu\text{g}/\text{kg}/\text{分}</math> の速さで持続静脈内投与する。なお、投与速度については、患者の全身状態を観察しながら、2 ～ 5 分間隔で 25 ～ 100%の範囲で加速又は 25 ～ 50%の範囲で減速できるが、最大でも <math>1.3 \mu\text{g}/\text{kg}/\text{分}</math> を超えないこと。浅麻酔時には、レミフェンタニルとして <math>1.0 \mu\text{g}/\text{kg}</math> を 2 ～ 5 分間隔で追加単回静脈内投与することができる。</p>
-----------------------------------	--